

# 大熊町を 端から端まで ● 知りつくぞう！

## ● 第7回 野馬形地区 区長 鎌田 清衛



明治六年熊町小学校が創立、昭和二十二年熊町中学校が創立、昭和四十五年熊町幼稚園が創立、



## ふるさと 再発見

### 地区集会所を訪ねて



▲野馬形地区集会所

地名の由来は「野馬追」に通じるものがあります。馬は農耕馬や厩肥をとるために貴重であり、また藩政時代から軍馬として高く売買されていました。

この地区は高台で川がなく水田に向かなかった。平地の条件の良い所が畠として開墾

され、大半は山林でした。その中でも湿地があり馬の水飲み場として利用出来る雜草地に土手を築いて馬の放牧地としていました。時には草競馬も行なっていたらしい。

それは現在の太田明孝氏の梨畠一帯で、今でも湿地の一部は残っており、昭和三十年

頃まで土手型が残っていました。それでこの一帯は「野馬形」と呼ばれていたらしい。町史によれば昭和五年に熊町村設置規定の改正が行われた時に、熊町村小入野一区のなかに「野馬形」の地名が出てくるが、昭和二十年頃までは家が数軒しかなく、集落としての機能を持っていなかつたが、終戦後の農地解放により開拓者が入植し、「野馬形」という行政区が形成されました。

野馬形地区は昭和四十七年の字名の整理、統合により「向畑」となり地名から消えましたが、行政区の地区名は「野馬形」を固持、戸数百三十七戸、住民は愛着を持っています。

が創立、平成十五年に児童館が設立され教育施設が整った文教地区です。（熊町中学校は統合され大熊中学校となる）町内ではここだけが昔から地区内に神社仏閣がない行政区です。伝統的な行事、お祭り、芸能が残っていなかったという特徴があります。

昭和五十年代後半、住民の心を繋ぐものがないかと模索をしている時、青年部を中心となつて、盆踊りを興すことになりました。何もないため一年がかりで住民の寄付や寄贈、奉仕によって太鼓、櫓が整うとともに杉内政巳氏の指



▲今年は約600人が踊りの輪に

踊り」や「フラ  
この盆踊りは  
神社への奉納が  
目的ではなく、  
先祖の靈を慰め、  
地域の絆を深め  
るのが目的な  
で、女性部有志  
によって、子ど  
もと一緒に練習

ることもしばし  
ばです。二十五  
回目の今年は約  
六百人が集りま  
した。



▶金魚すくいに熱中

月十三日の盆踊りは大盛況で続いております。七月に入ると青年部が地区の子どもたちを募って笛、太鼓、唄の練習が始まります。八月十三日には青年部によって旧熊町中学校跡地の広場に櫓が組まれ、笛や太鼓が響きます。墓参りを済ませた人々は暗くなるのを待ちかねたように集まります。町内きつて始まるごとに、近くに住宅団地もあって、年々参加者が増えてきました。踊りには仮装大賞があり、他の地区の方が豪華景品を持ち帰りました。何もないため一年がかりで住民の寄付や寄贈、奉仕によって太鼓、櫓が整うとともに杉内政巳氏の指



▲ユニークな応援団

ダンス」の披露もあり、帰省客らと供に家族で楽しむ夏祭りの暑い一夜は更けていきます。また、老人クラブ、青年部、女性部、リサイクル部など、それぞれ活発な活動をしてい

ます。特にリサイクル活動は四〇名以上のメンバーで構成されています。年間計画で割り当てられた会員が月一回、当番の責任者を中心に、なるべくゴミを少なく、ゴミを資源とする考え方を基本に回収、整理をしています。夫婦、家族ぐるみの活動が特徴的です。また今年の育成会の三世代交流事業は羽子板と羽根を手づくりして羽根つき大会をしました。

町民体育祭にはユニークな応援団が登場、場内を沸かせ、選手に勇気とパワーを与え、二年連続小入野地区総合一位入賞に貢献しました。